

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. H28 年度適正利用・エコツーリズム検討会議の開催経過

- 第1回：平成 28 年 9 月 6 日（火） 羅臼町
第2回：平成 29 年 3 月 9 日（木） 斜里町（予定）

2. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案され取組が進められている 4 件については以下のような状況である。

① 厳冬期の知床五湖エコツアー事業（提案者：斜里町観光協会）

冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施した。知床五湖冬期適正利用協議会が実施し、3 年目の平成 28 年度は 60 日間で 1,700 人を目標に実施中。

② 赤岩地区昆布ツアー（提案者：羅臼町観光協会）

半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーと位置づけて試行している。コンブ漁の歴史と文化について解説を行う。3 年間の非営利のモニターツアーとして、平成 26 年度から条件付きで検討会議の管理下で試行的に実施しており、平成 28 年度は試行 3 年目となっている。第 2 回の検討会議（3/9 予定）において、報告を元に内容を精査し、今後の試行延長について検討する予定である。

③ 外国人旅行者向け情報発信の強化（提案者：知床財団）

ルールを含めた知床の楽しみ方について、外国人に向けた情報発信の強化を目的として、平成 27 年に部会の設置が承認され、知床斜里町観光協会・知床羅臼町観光協会と連携することとされた。2 年目の平成 28 年度は利用施設最新情報ボード（知床情報玉手箱）や「日刊ヒグマ情報」のレクチャーを実施。第 3 回部会は平成 29 年 2 月 17 日に開催した。

④ 先端部地区利用の心得の点検（提案者：環境省釧路自然環境事務所）

策定より時間が経過している先端部地区利用の心得について、利用者ニーズや利用形態の変化等を踏まえ、点検作業を行っている。平成 28 年度はこれまでに部会を 3 回開催し、利用の心得修正案及びその普及啓発媒体について議論してきた。平成 29 年 2 月 27 日に開催予定の第 4 回部会では、これまでの議論を踏まえた利用の心得修正案をとりまとめ、利用の心得の普及啓発媒体について作成方針を協議する予定である。

3. 個別地域における取り組み状況

○知床五湖における利用調整地区制度の運用

引き続き、ヒグマ活動期及び植生保護期を適切に運用した。平成 28 年度の立入認定者数は、8 月台風の影響もあり前年度比 92%の 65,863 人となった。制度導入以降は 6 万人代後半で安定的に推移している。

○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成28年は8月1日～25日及び9月18日～22日の計30日間でマイカー規制を実施した。平成29年2月13日の部会において、平成29年～平成31年のマイカー規制実施期間を8月1日～25日と決定した。

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、知床海鳥WEEKや自然センターでの企画展等の各種イベントや海鳥のモニタリングを実施。海域観光の充実や収益の環境保全への還元、野生動物と人との適正な関係の周知等を目的として知床ウトロ海のハンドブックを発行し、平成28年度は12月末時点で約3,800冊を販売して売り上げが114万円となっている。

4. その他の報告事項

○ヘリコプタークルージング

ウトロ市街地より発着し、知床五湖沖合を遊覧するツアー。提案事業ではないため、平成28年度第1回検討会議において、当面の間、斜里町を窓口として、事業者の事業実施状況等について報告を受けることとした。

5. 平成29年度の主な予定

提案の提出状況等に応じ、適正利用・エコツーリズム検討会議を2回開催予定である。